

BPT(バイオマスプロジェクトチーム)だより No.66

<http://www.pref.chiba.lg.jp/cate/km/kankyoku/junkan/biomass/index.html>

平成28年3月29日

バイオマスプロジェクトチーム

(環境生活部 循環型社会推進課)



ごあいさつ

バイオマスの利活用については、循環型社会の形成や地球温暖化防止の観点から、より幅広い分野で一層進めていく必要があります。

当チームでは今後とも「千葉県バイオマス活用推進計画」に基づき、バイオマスの利活用推進を図ってまいりますので、皆様には引き続き御協力をお願いいたします。

1. トピックス

○平成27年度バイオマス利活用研修会 (平成27年7月30日)

バイオマスの利活用について、県民の皆様の理解を深めていただくため、千葉市ビジネス支援センター(きぼーる)にて研修会を開催しました。



当日は、44名の方にお集まりいただき、まずは「バイオマスとは？」から始まる基礎的事項について講義を行いました。

次に、実際の取組を紹介することでバイオマスを身近に感じていただくため、市原グリーン電力(株)と大金興業(株)の御協力のもと、企業の取組事例を紹介しました。

取組事例のひとつとして、「建設廃材等を燃料とする発電」と題して、市原グリーン電力(株)代表取締役社長の新谷一章氏から御講演をいただきました。市原グリーン電力(株)では、建設現場より排出された廃木材を原料とした木チップを主燃料とし、工場などから排出された紙・廃プラスチックを加工したRPFも一部燃料として、循環型流動層ボイラーで燃焼し、発電・売電しているとの紹介がありました。

もうひとつの取組事例として、「廃食用油から作るバイオディーゼル燃料」と題して、大金興業(株)代表取締役の大野光政氏から御講演をいただきました。大金興業(株)では、店や個人宅などで使われた廃食用油(天ぷら油)を回収し、軽油とほぼ同じパワーを持つ燃料「バイオディーゼル」を製造しており、平成26年8月からは、千葉市の協力のもと、千葉市内拠点で廃食用油の回収を行っているとの紹介がありました。

来年度も県民の皆様を対象とした研修会を開催し、事例紹介等を行うことで、バイオマス利活用への更なる関心を高めていただきたいと考えております。

○千葉県バイオマス活用推進計画中間とりまとめ

県では「バイオマス活用推進計画」（平成23年7月策定）に基づき、バイオマスの活用推進に取り組んでいるところであり、同計画では、バイオマスの利用率を平成22年度の75%から、目標年度の平成32年度には80%以上の利用を目指すこととしております。

同計画では、5年ごとに目標の達成状況を把握するとともに、必要に応じて、施策の見直しや計画の変更を行うこととなっていることから、平成26年度におけるバイオマス発生・利用状況調査を行いました。

その結果は表1のとおりであり、平成26年度のバイオマスの利用率は71%にとどまり、計画基準値（平成22年度）の75%を下回る結果となりました。

<表1 バイオマス活用推進計画における基準・目標及び中間年度における達成状況>

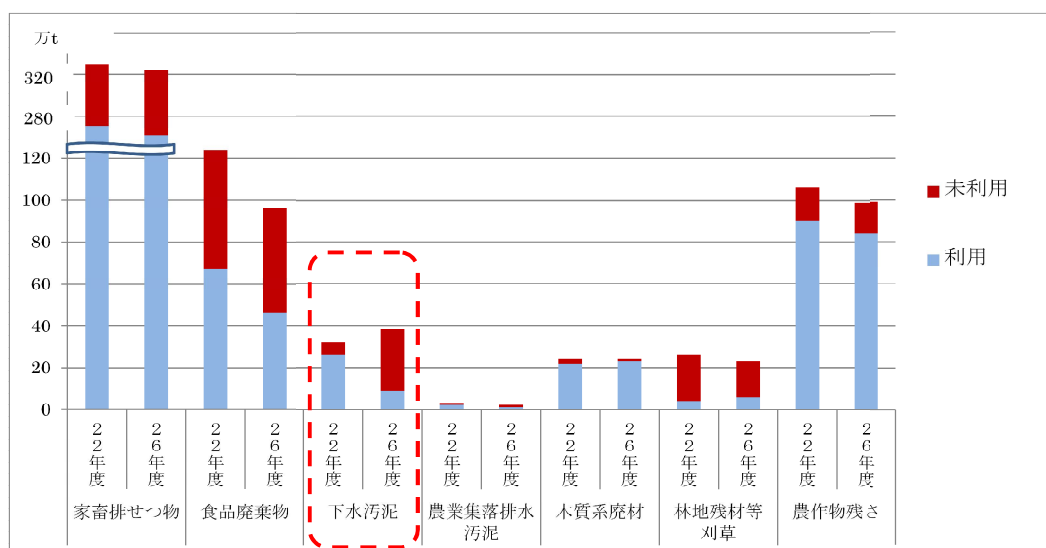
	基準年度(平成22年度)			中間年度(平成26年度)			目標年度(平成32年度)		
	発生量 万t	利用量 万t	利用率 %	発生量 万t	利用量 万t	利用率 %	発生量 万t	利用量 万t	利用率 %
全バイオマス	644	483	75	605	431	71	668	536	80
廃棄物系バイオマス	532	392	74	502	346	69	556	437	79
未利用バイオマス	112	91	82	103	85	82	112	99	88

中間年度における利用率が計画基準値を下回った理由としては、図1のとおり下水汚泥の利用率が大きく低下したために、廃棄物系バイオマスの利用率が低下したことが原因です。

下水汚泥の利用率が低下した理由は、原発事故により放出された放射性物質が、下水処理により汚泥に濃縮される事態となったことにより、従前から行われてきたセメント原料としての再利用が著しく減少（平成22年度 75.6%→平成26年度 22.3%）したためです。

原発事故による影響が顕著である下水汚泥を除けば、利用率は平成22年度と比較して同程度でした。（平成22年度 74.7%→平成26年度 74.4%）

<図1 下水汚泥の利用率低下>



推進計画に基づく各種事業を着実に実施し、計画目標値である利用率80%の達成に向け、引き続き努力していきます。

2. 市町村等との連携

○平成27年度廃棄物対策清掃事業研修会（平成27年8月25日）

市町村や一部事務組合の廃棄物・清掃担当職員を対象とした研修会が千葉県教育会館新館にて開催され、当チームでは「バイオマス活用推進計画」について講義を行いました。

県内では、バイオマス活用推進基本法に基づきバイオマス活用推進計画（市町村計画）を策定した市町村はまだありません。計画の策定が義務規定ではないことや、全ての市町村がバイオマスの活用に取り組みやすいわけではないことがその理由と考えられます。

これからバイオマスの活用に積極的に取り組んでいこうという市町村は、「計画作成の手引き」（下記 URL）を参考に、計画の策定について御検討願います。

(http://www.maff.go.jp/j/shokusan/biomass/b_kihonho/local/keikaku_sakutei.html)

3. 関連業務

○平成27年度エコフィード・TMRコーディネート推進事業

「第1回・第2回利用推進会議」

千葉県畜産協会の主催により、平成27年8月25日に第1回利用推進会議が県畜産総合研究センターにて開催されました。



第1回利用推進会議

平成27年度事業概要、エコフィード・TMR利用推進に関する今後の取組について、畜産協会から説明があった後、関係者で情報交換が行われました。

また、平成28年3月16日には、第2回利用推進会議が県畜産総合研究センターにて開催され、平成27年度事業実績について畜産協会から説明があった後、関係者で情報交換が行われました。

○平成27年度エコフィード研修会（平成28年1月28日）

千葉県畜産協会の主催により、旭市ヒューマンプラザ黄鶴にて研修会が開催されました。

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構の永西修氏から、「食品廃棄物の動向と飼料化に向けた課題」について講演後、堀江ファーム代表の堀江光洋氏から、「エコでよみがえる伝説の豚肉」について事例紹介がありました。



○平成27年度木質バイオマス利用拡大事業

県農林総合研究センター森林研究所では、未利用の木質バイオマスの低コストで容易な収集・搬出方法を調べるため、現地試験をおこないました。スギ間伐材の上り斜面の搬出において、2種類の小型ウインチと人力を比較した結果、「ポータブルロープウインチ（50cc エンジン搭載）」は平地から急傾斜のどの斜面においても、安定して効率的に材を搬出できることがわかりました。また、モウソウチクの下り斜面の搬出において、2種類の「シューター」と人力を比較し結果、緩斜面ではポリカーボネート樹脂製波板を使用した「修羅 iido」が適しており、急斜面ではポリエチレン製の「半割りコルゲート管」が適していることがわかりました。

4. 普及啓発活動

○各種イベントでのバイオマス関係パンフレット配布等による普及啓発活動の実施

下記イベントにおいて、バイオマス関係パンフレットや木質バイオマスストラップを配布する等、普及啓発活動を行いました。

イベント名	開催日	開催場所
わくわく森フェスタ 2015	5月16日	千葉市青葉の森公園
平成27年度エコフェアいちほら	6月13日	市原市役所
県民の日ちばワクワクフェスタ 2015	6月14日	幕張メッセ国際展示場
エコメッセ 2015 in ちば	9月23日	幕張メッセ国際会議場
九都県市再生可能エネルギー活用セミナー	9月23日	幕張メッセ国際会議場
第39回千葉市民産業まつり	11月8日	千葉ポートパーク
エコセミナー	2月10日	千葉県環境研究センター

<イベントの様子>



【わくわく森フェスタ 2015】



【平成27年度エコフェアいちほら】



【県民の日ちばワクワクフェスタ 2015】



【第39回千葉市民産業まつり】